

「公印省略」

16病防管第799号
平成17年2月3日

各関係機関の長 殿

福岡県病害虫防除所長

平成16年度病害虫発生予報第11号について

このことについて、以下のとおり送付します。

平成16年度病害虫発生予報第11号(2月)

【野菜】

作物名	病害虫名	発生現況 (平成16年比)	発生予想 (平成17年比)
ナス	うどんこ病 灰色かび病 すすかび病	やや少ない 並 並	やや少ない やや多い 並
トマト	灰色かび病 菌核病 葉かび病	並 並 多い	並 並 やや多い
イチゴ	灰色かび うどんこ病 アブラムシ類 ハダニ類	並 やや少ない 並 多い	やや少ない やや少ない 並 やや多い
キュウリ	べと病 うどんこ病 灰色かび病 褐斑病	並 並 並 並	並 並 並 やや多い
レタス	灰色かび病 腐敗病	やや少ない 並	やや少ない やや多い
キャベツ	黒腐病 菌核病 コナガ	多い やや少ない やや少ない	やや多い やや少ない やや少ない
野菜共通	ミナミキイロアザミウマ コナジラミ類	並 少ない	並 少ない

1 冬春ナスの灰色かび病

(1) 予報の内容

発生量：平年、前年よりやや多い

(2) 予報の根拠

ア 1月5半旬調査の結果、発病果率は0.9%（平年：0.4%、前年：0%）であった。

イ 気象予報では、2月の平均気温は平年並か低く、降水量は平年並と予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

アハウスの換気を行い、多湿にならないよう管理する。

イ病勢が進展すると防除が困難となるので、発病前または発病初期の防除を徹底する。

ウ発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。

エ薬剤感受性低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。

オ薬剤防除は、使用基準を守り、危被害防止に努める（以下の病害虫についても同様）。

2 トマトの葉かび病

(1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多く、前年並

(2) 予報の根拠

ア 1月5半旬調査の結果、発病葉率は15.0%（平年：3.7%、前年：12.2%）であった。

イ 気象予報では、2月の平均気温は平年並か低く、降水量は平年並と予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

アハウスの換気を行い、多湿にならないよう管理する。

イ草勢が低下すると発病が助長されるので、適正な肥培管理を行う。

ウ病勢が進展すると防除が困難となるので、発病前または発病初期の防除を徹底する。

エ発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。

オ薬剤感受性低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。

3 イチゴのハダニ類

(1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多く、前年並

(2) 予報の根拠

ア 1月5半旬調査の結果、寄生株率は9.3%（平年：2.3%、前年：11.1%）であった。

イ 気象予報では、2月の平均気温は平年並か低く、降水量は平年並と予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア多発生後は防除が困難となるので、早期発見、早期防除に努める。

イイチゴ以外の植物にも寄生するので、ほ場周辺作物や雑草の薬剤防除、除草を行う。

ウ寄生した株からかぎ取った葉や抜き取った雑草は、ほ場周辺に放置せず速やかにビニル袋等に入れて密閉し処分する。

エ薬剤感受性低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる

る系統の薬剤をローテーション散布する。

4 キュウリの褐斑病

(1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多く、前年並

(2) 予報の根拠

ア 1月5半旬調査の結果、発病株率は2.7%（平年：0.7%、前年：2.0%）であった。

イ 気象予報では、2月の平均気温は平年並か低く、降水量は平年並と予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア ハウスの換気を行い、多湿にならないよう管理する。

イ 草勢が低下すると発病が助長されるので、適正な肥培管理を行う。

ウ 病勢が進展すると防除が困難となるので、発病初期の防除を徹底する。

エ 薬剤感受性低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。

5 レタスの腐敗病

(1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多く、前年並

(2) 予報の根拠

ア 1月5半旬調査の結果、発病株率は2.1%（平年：1.4%、前年：4.0%）であった。

イ 気象予報では、2月の平均気温は平年並か低く、降水量は平年並と予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

病株はほ場に放置せず、ほ場外に持ち出し処分する。

6 キャベツの黒腐病

(1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多く、前年より多い

(2) 予報の根拠

ア 1月5半旬調査の結果、発病株率は5.3%（平年：0.6%、前年：0%）であった。

イ 気象予報では、2月の平均気温は平年並か低く、降水量は平年並と予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 多発生後は防除が困難となるので、早期発見、早期防除に努める。

イ 病株はほ場に放置せず、ほ場外に持ち出し処分する。

2月の気象予報（1か月）

（予報期間 1月29日～2月28日）

2005年1月28日

福岡管区気象台発表

【概要】

向こう1か月の平均気温は平年並か低く、降水量は平年並、日照時間は平年並か少ない可能性が大きいでしょう。

九州北部地方では、平年に比べ曇りや雨または雪の日が多いでしょう。

【要素別確率】

（単位％）

要素	低い （少ない）	平年並	高い （多い）
気温	40	40	20
降水量	30	40	30
日照時間	40	40	20

- < 1週目の予報 > 1月29日～2月4日
この期間の平均気温は、低い可能性が大きいでしょう。
- < 2週目の予報 > 2月5日～2月11日
この期間の平均気温は、平年並の可能性が大きいでしょう。
- < 3～4週目の予報 > 2月12日～2月25日
この期間の平均気温は、平年並の可能性が大きいでしょう。

参考資料

福岡における平年値

向こう1か月の平均気温、降水量、日照時間と1週目、2週目、3～4週目の平均気温

向こう1か月			平均気温（ ）		
平均気温（ ）	降水量(mm)	日照時間(h)	1週目	2週目	3-4週目
6.8	74.6	125.8	5.9	6.5	7.2

病虫害防除所では、病虫害の発生状況と防除について、ホームページでお知らせしています。アドレス及び番号は下記の通りです。

ホームページアドレス
電子メールアドレス

<http://www.jppn.ne.jp/fukuoka>
kfok0301@sp.jppn.ne.jp